集落支援通信３８

# 地域におじゃまします。

## 御波地区大注連縄完成！

7月号・11月号と掲載しました、御波地区の大注連縄作り。ついに完成を迎え、11月末に奈須神社と布施神社、それぞれに奉納されました。12月初旬には宮司さんを迎えて奉納奉告祭が斎行され、区の皆さんが集まって完成をお祝いしました。作業の様子は中央公民館だより「絆」12月号にも詳しく掲載されておりますので、併せてご覧ください。作りながら試行錯誤していく様子からも、区のみなさんの思いと誇りが詰まった大注連縄となったことが伝わってきます。みなさんも、両神社にお参りする際はぜひ大注連縄に注目してみてください。今回は大注連縄作りを通してでしたが、こうした、区の交流を深めたいという思いから始まる活動の輪が、広がっていくことを願っています。

## 福井地区でダッシュ村もちつき

12月10日、福井公民館にて、子どもダッシュ村もちつき大会が行われました。小さな子どもから年配の方まで総勢60名が参加し、公民館の中はあたたかく、にぎやかな雰囲気に包まれました。子どもたちは寒さに負けず、大きな杵を持って「よいしょ！」と、力いっぱいお餅をつきました。地域の方々にお餅の丸め方やきな粉の作り方を教わっている子どもたちからは、真剣な顔や笑顔など様々な表情が見られました。

お餅でお腹が満たされた後は、お正月の玄関に飾る注連飾りを作りました。田んぼの多い福井地区には、縄ないに熟達した方が多く、子どもたちや保護者さんはもちろん、地区内の若い方も教わり、多世代交流の機会となりました。

この餅つき大会は、毎年各地区にお邪魔するかたちで開催しています。子どもダッシュ村が地域にお邪魔することで、子どもたちにも、地域のみなさんにも楽しんでいただければ幸いです。

## International ご飯持ち寄り会

12月10日、あまマーレで「International ご飯持ち寄り会」が開かれました。海士には海外からの移住者も多く、英語を耳にする場面もあります。『その方たちが1品ずつでも料理を持ち寄ったら、きっとわくわくするようなご飯会になる』と有志の方から提案があり、企画しました。

当日は20名が参加。見た目からすでに辛そうな韓国の料理「タックポックンタン」や、直訳すると焼鳥という意味のフィリピン料理「レッチョンマノック」など、テーブルには13品が並びました。皆さんおもてなしの心が強く、こういう機会に食べてもらいたいものを考えて持ってきてくださいました。短い時間でしたが、あっという間に完食しました。多世代交流に加え、他国の文化を知る機会になりました。

日々の集落支援員の活動を、インターネットで発信！
Facebookページ更新中！
www.facebook.com/ama14chiku

あまマーレのホームページができました！
貸切予約やイベント情報はこちらから
http://ama-mare.com/

# 教育だより【海士町教育委員会】

## 海士町の特色ある宿泊体験活動『普段の生活学校』

11月20日(月)から25日(土)まで、海士中学校2年生9名を対象に『普段の生活学校』が行われました。

この事業は中学校の職場体験学習に合わせて中央公民館で共同生活を行い、社会人の生活を体験するものです。職場体験先の地域の方をはじめ、島根大学教育学部の学生にお世話になりながら生活しました。ねらいは次の通りです。

**○職場体験学習で疲れていても炊事や洗濯などの日常の家事を行うことで、生活技術の習得を図るとともに、自分のことは自分で行う態度を養い、自立心を高める。**

**○家族への感謝の気持ちと家族の一員としての自覚を高める。**

**○集団生活を通して協力し合う大切さを学ぶ。**

5泊6日の子どもたちの様子を中心にお伝えします。

魚さばき教室では、安井さんのご指導のもと親も一生懸命！

**①あいさつは2言で**

職場体験や集団生活の中で最も大事にしてほしかったことはコミュニケーション力の基礎ともいえる「あいさつ」です。事業先の方やお客さんとのよりよい関係を築くためには、明るい会話が必要と考え、あいさつの後にもう一言付け加えましょうと呼びかけました。初めは何を話してよいかわからず戸惑い気味の子ども達でしたが、「今日もよろしくお願いします」「お茶の用意ありがとうございました」などと考えるようになりました。

**②時間の使い方**

9名という少人数体制は調理などの共同作業が大変だと思っていましたが、一人一人の作業量が増え、手早く進めることができていました。また、洗濯の時間を設定せず、空いた時間に数人で使うように指示したところ、子ども同士相談したり、洗濯機が終わる時間のロスがなくなる工夫をしたりする姿がありました。

**《生徒の感想より》**

今回の生活学校では、2言あいさつができるようになりました。今まで2言あいさつなんてしたことがなかったし、するものでもないと思っていました。だけど、お互いに気持ちがよくなることがわかったので、これからも続けてみたいと思います。自分一人ではできなかったこともたくさんあったと思います。改めて仲間の大切さを感じました。

**《保護者の感想より》**

子どもにとっては日常生活ですることや仕事の大変さなどを感じる貴重な経験となったように思います。家に帰ってから、普段の生活学校やこれまでの家庭生活は先生方や家族に支えられていると感じたようで、体験前より手伝いをすることが多くなったように思います。この期間子どもと離れて暮らす親にとってもいい学びの場となりました。

※一部を省略して記載しています。

集中して取り組んだ毎日の学習

5泊6日の間、職場体験の事業先の方をはじめ、たくさんの方にお世話になりました。健康福祉課職員には調理指導だけでなく、毎食の献立計画など、直接かかわりのないところでも携わっていただいています。そういった見えないところで支えてくださっている方々の存在もありました。

今回の経験は、今後の生活にいかに生かされるかという意識がなければ本当の『普段の生活学校』にはならないと思います。「できた」「がんばった」だけではただの体験で終わってしまいます。学校・家庭・地域のいろいろな場面で、時間の活用や共同作業、相手への思いやりを大切にできる人になってほしいと願っています。その成果を2月の立春式で見せてもらいたいです。

**（地域共育課　社会教育主事　山下裕次）**

最終日を迎えた朝の金光寺での全体写真！